

2021/9/16

## 柏の景気情報(令和3年8月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
T E L : 04-7162-3305  
F A X : 04-7162-3323  
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報(令和3年8月分)

○ 調査期間 : 令和3年8月25日 ~ 令和3年9月6日

○ 調査対象 : 柏市内129事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	129	88	68.2%
建設	31	16	51.6%
製造	35	26	74.3%
卸・小売	38	29	76.3%
サービス	25	17	68.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.6(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

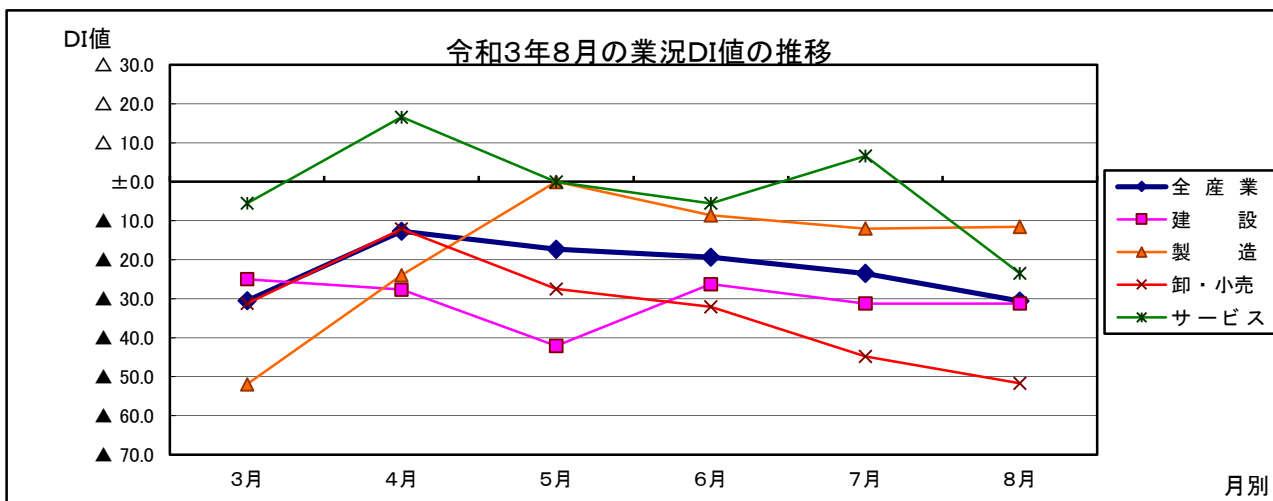
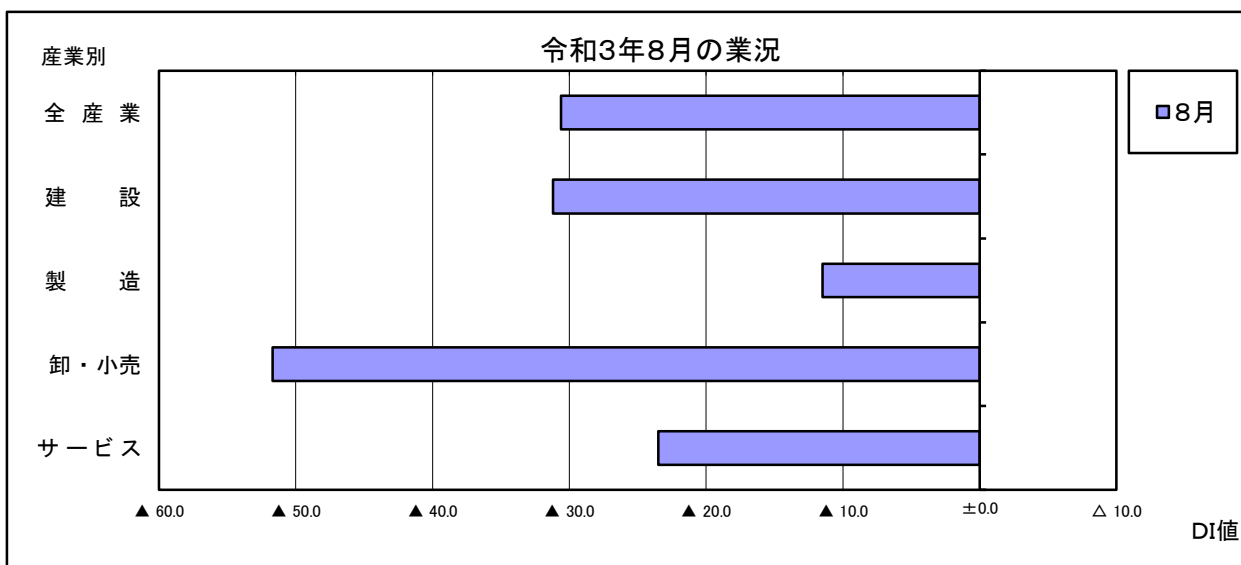
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.5(同▲12.0)である。変らない業種は、建設業▲31.2(同▲31.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲23.5(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲51.7(同▲44.8)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.3(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11.7(同△6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同▲43.7)、製造業▲3.8(同▲4.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲48.2(同▲37.9)である。

令和3年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲30.5	▲12.7	▲17.3	▲19.3	▲23.5	▲30.6	▲19.3(▲21.1)
建設	▲25.0	▲27.7	▲42.1	▲26.3	▲31.2	▲31.2	▲25.0(▲43.7)
製造	▲52.0	▲24.0	±0.0	▲8.6	▲12.0	▲11.5	▲3.8(▲4.0)
卸・小売	▲31.2	▲12.1	▲27.5	▲32.1	▲44.8	▲51.7	▲48.2(▲37.9)
サービス	▲5.5	△16.6	±0.0	▲5.5	△6.6	▲23.5	△11.7(△6.6)



【令和3年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲27.0)となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大した。

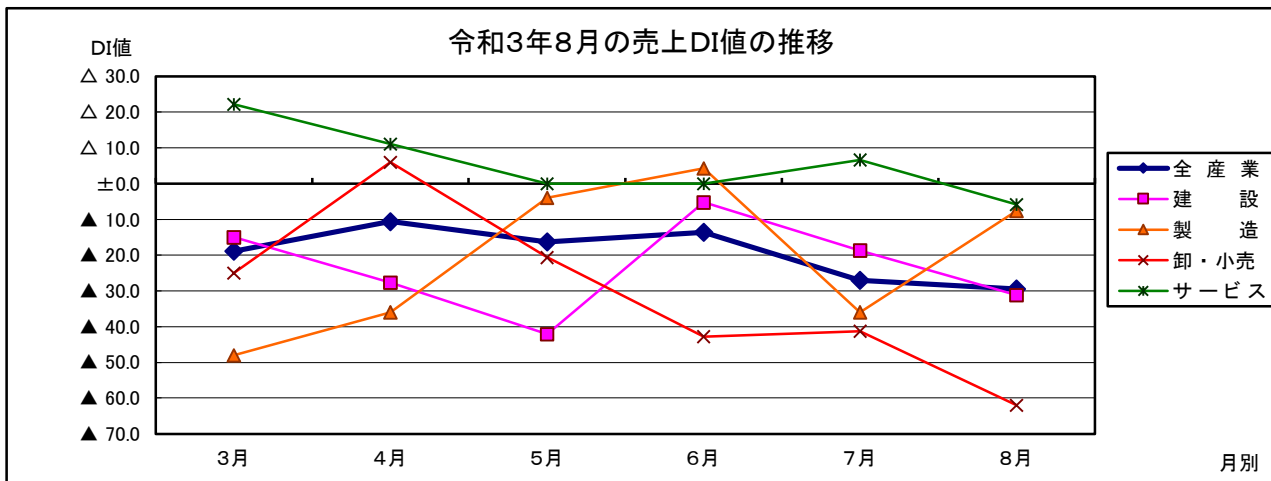
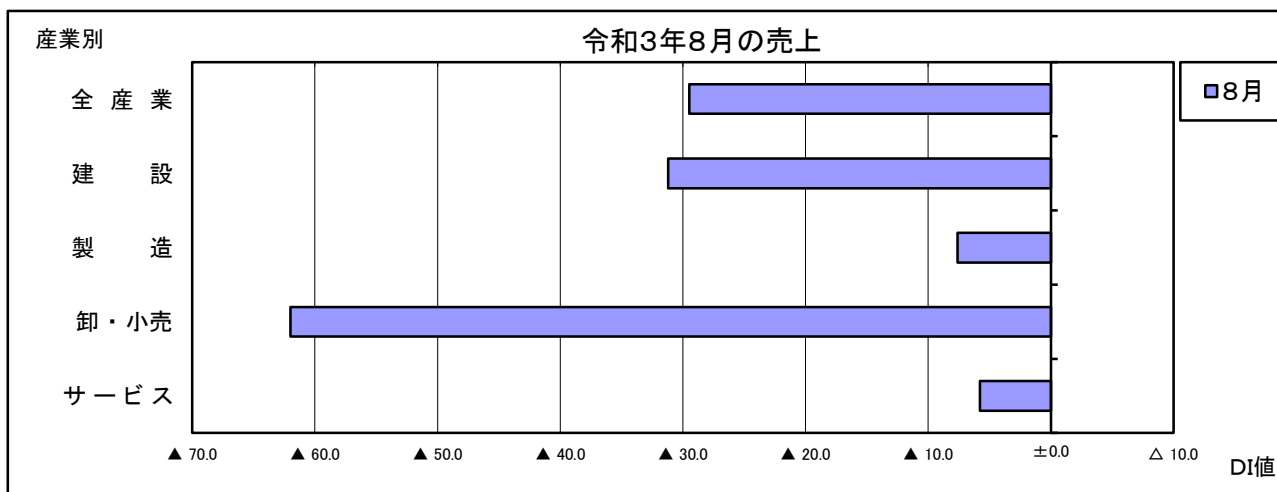
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲7.6(同▲36.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲5.8(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲62.0(同▲41.3)、建設業▲31.2(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.9(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.5(同▲37.5)、卸小売業▲34.4(同▲37.9)、製造業▲7.6(同▲8.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。

令和3年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲18.9	▲10.6	▲16.3	▲13.6	▲27.0	▲29.5	▲15.9(▲20.0)
建設	▲15.0	▲27.7	▲42.1	▲5.2	▲18.7	▲31.2	▲12.5(▲37.5)
製造	▲48.0	▲36.0	▲4.0	△4.3	▲36.0	▲7.6	▲7.6(▲8.0)
卸・小売	▲25.0	△6.0	▲20.6	▲42.8	▲41.3	▲62.0	▲34.4(▲37.9)
サービス	△22.2	△11.1	±0.0	±0.0	△6.6	▲5.8	±0.0(△13.3)



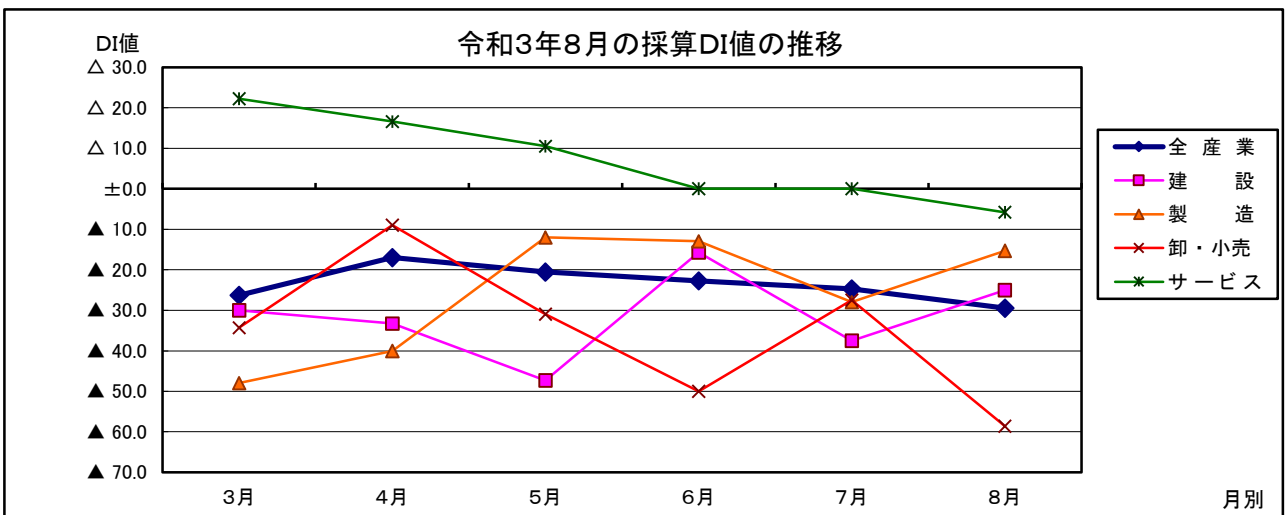
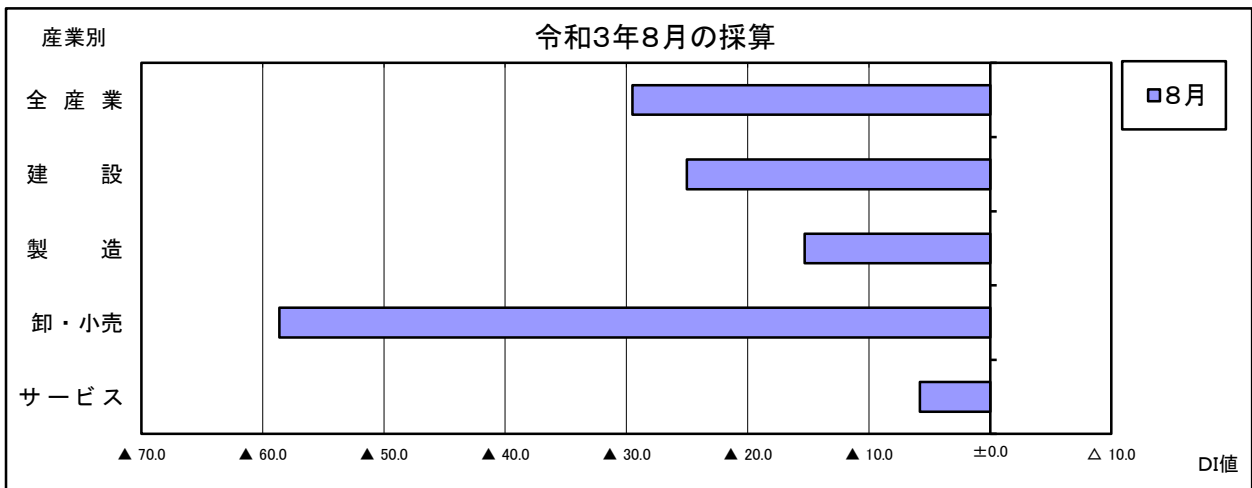
【令和3年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が4.8ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲15.3(同▲28.0)、建設業▲25.0(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲58.6(同▲27.5)、サービス業▲5.8(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.5(前月水準▲20.0)であり、マイナス幅が1.5ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲18.7(同▲37.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲15.3(同▲8.0)、卸小売業▲41.3(同▲37.9)である。

令和3年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲26.3	▲17.0	▲20.6	▲22.7	▲24.7	▲29.5	▲21.5(▲20.0)
建設	▲30.0	▲33.3	▲47.3	▲15.7	▲37.5	▲25.0	▲18.7(▲37.5)
製造	▲48.0	▲40.0	▲12.0	▲13.0	▲28.0	▲15.3	▲15.3(▲8.0)
卸・小売	▲34.3	▲9.0	▲31.0	▲50.0	▲27.5	▲58.6	▲41.3(▲37.9)
サービス	△22.2	△16.6	△10.5	±0.0	±0.0	▲5.8	±0.0(△13.3)



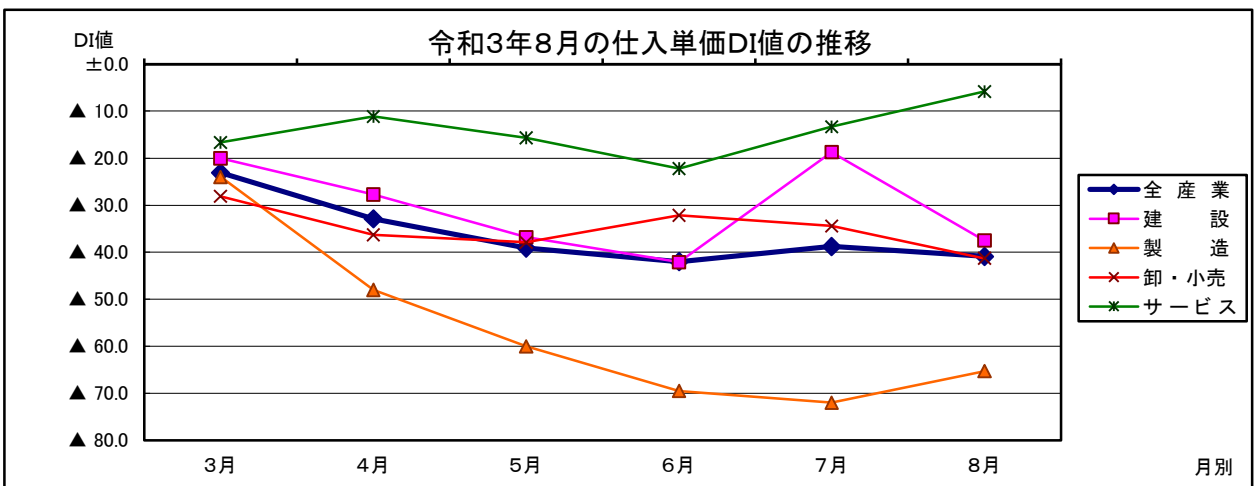
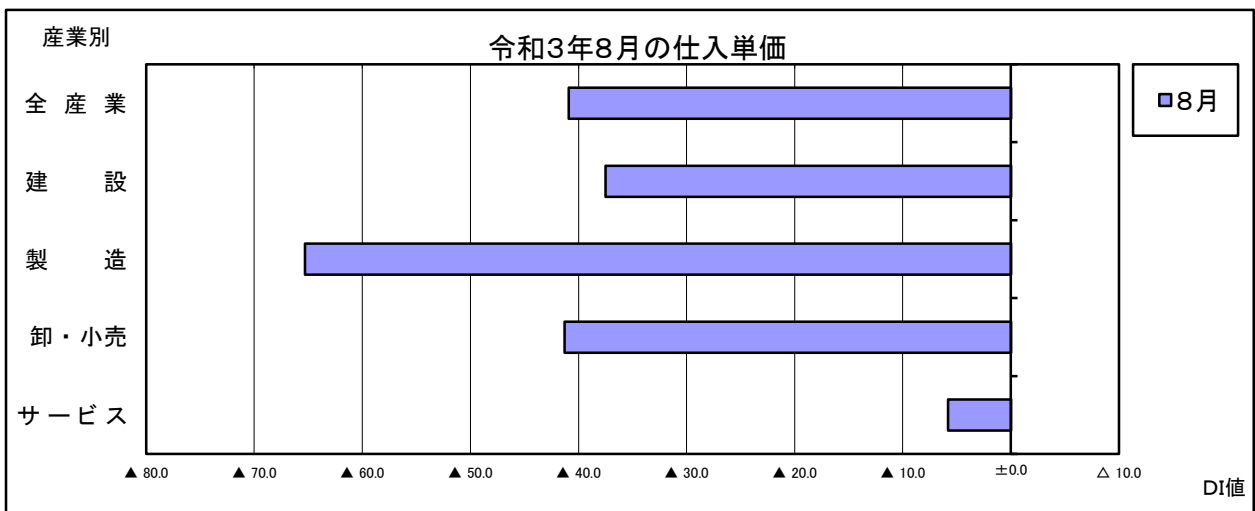
【令和3年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.9(前月水準▲38.8)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲13.3)、製造業▲65.3(同▲72.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲18.7)、卸小売業▲41.3(同▲34.4)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲39.7(前月水準▲41.1)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲13.3)、卸小売業▲41.3(同▲44.8)である。変らない見通しの業種は、建設業▲31.2(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲65.3(同▲60.0)である。

令和3年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲23.1	▲32.9	▲39.1	▲42.0	▲38.8	▲40.9	▲39.7(▲41.1)
建設	▲20.0	▲27.7	▲36.8	▲42.1	▲18.7	▲37.5	▲31.2(▲31.2)
製造	▲24.0	▲48.0	▲60.0	▲69.5	▲72.0	▲65.3	▲65.3(▲60.0)
卸・小売	▲28.1	▲36.3	▲37.9	▲32.1	▲34.4	▲41.3	▲41.3(▲44.8)
サービス	▲16.6	▲11.1	▲15.7	▲22.2	▲13.3	▲5.8	▲5.8(▲13.3)



【令和3年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△6.8(前月水準△7.0)となり、プラス幅が0.2ポイント縮小した。

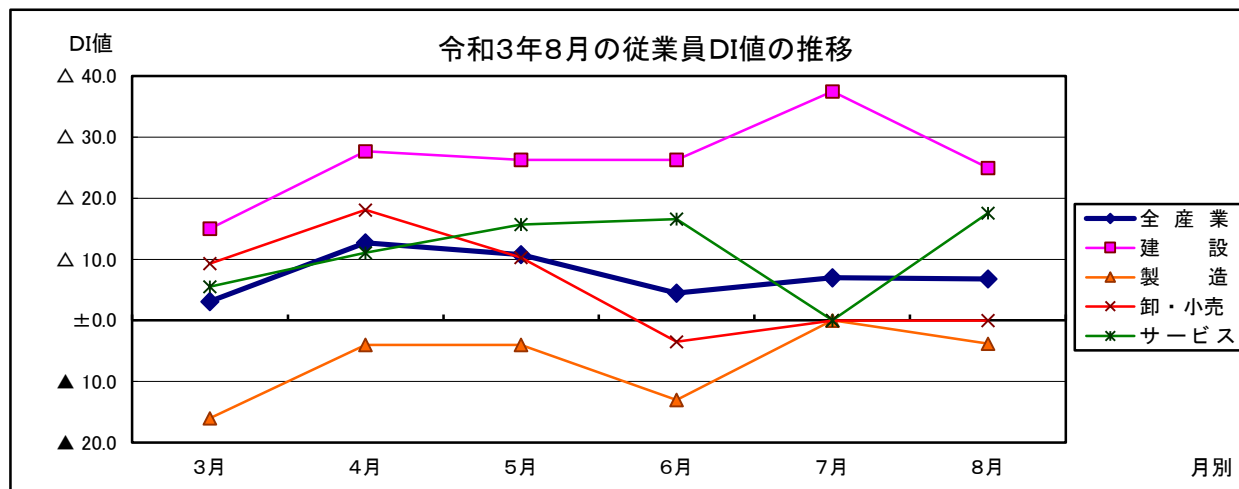
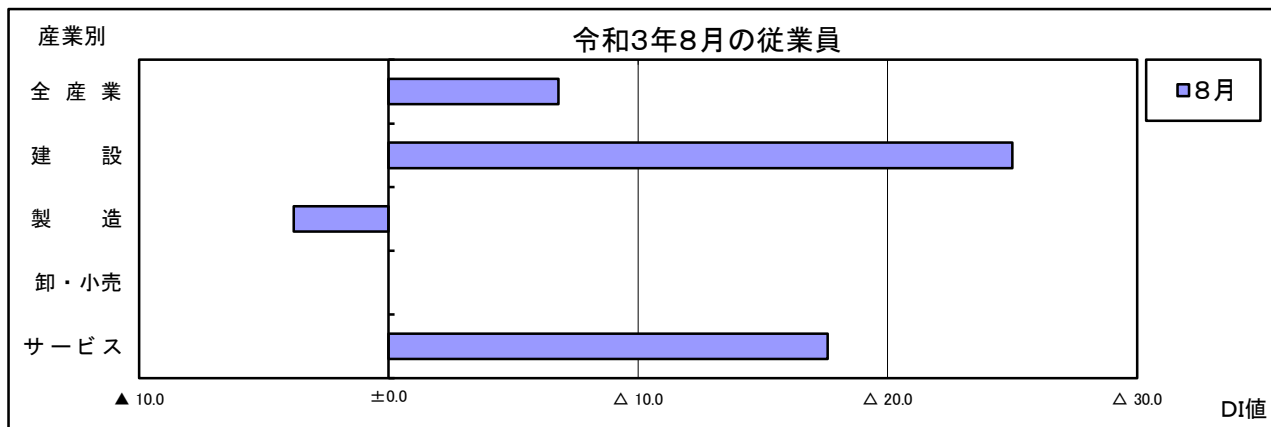
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△17.6(同±0.0)である。変らない業種は、卸小売業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△25.0(同△37.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲3.8(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△12.5(前月水準△12.9)となり、プラス幅が0.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△29.4(同△13.3)、卸小売業△13.7(同△6.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△12.5(同△37.5)、製造業±0.0(同△4.0)である。

令和3年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△3.1	△12.7	△10.8	△4.5	△7.0	△6.8	△12.5(△12.9)
建設	△15.0	△27.7	△26.3	△26.3	△37.5	△25.0	△12.5(△37.5)
製造	▲16.0	▲4.0	▲4.0	▲13.0	±0.0	▲3.8	±0.0(△4.0)
卸・小売	△9.3	△18.1	△10.3	▲3.5	±0.0	±0.0	△13.7(△6.8)
サービス	△5.5	△11.1	△15.7	△16.6	±0.0	△17.6	△29.4(△13.3)



【令和3年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。

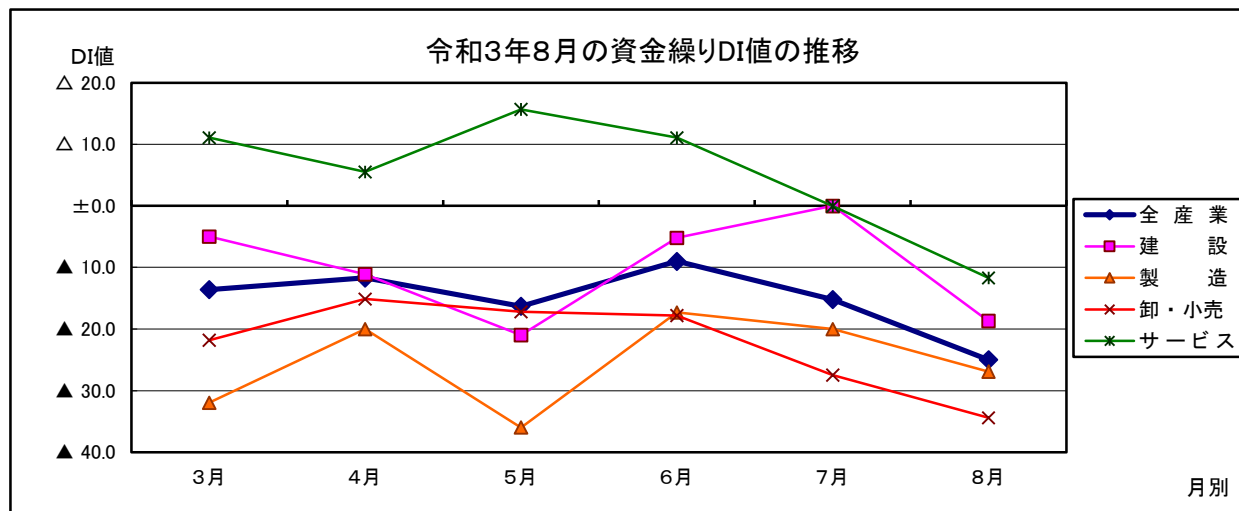
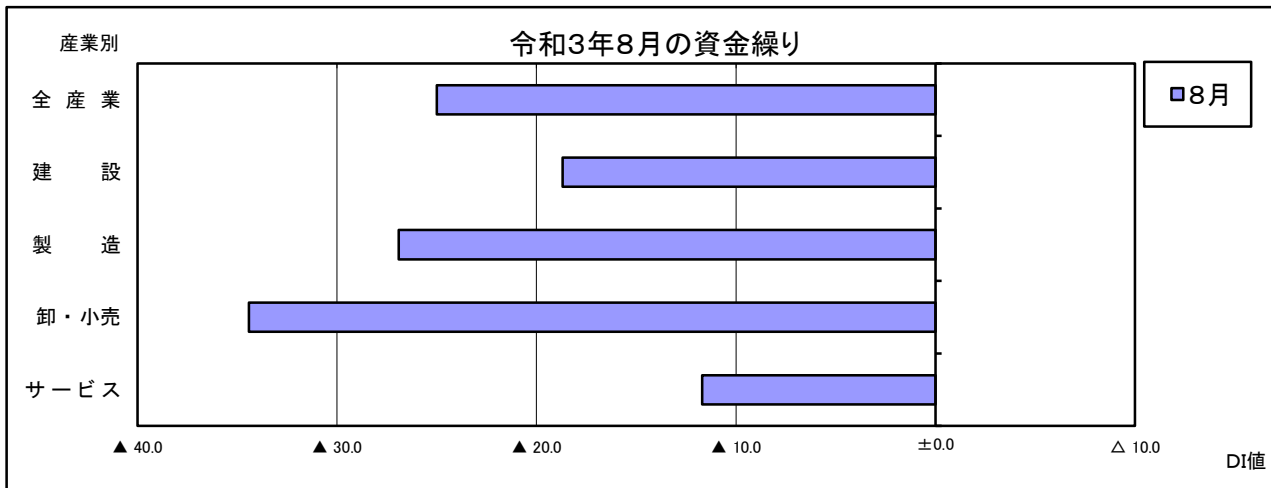
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同±0.0)、サービス業▲11.7(同±0.0)、製造業▲26.9(同▲20.0)、卸小売業▲34.4(同▲27.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.5(前月水準▲18.8)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲6.6)、建設業▲12.5(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.9(同▲16.0)、卸小売業▲34.4(同▲27.5)である。

令和3年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲13.6	▲11.7	▲16.3	▲9.0	▲15.2	▲25.0	▲21.5(▲18.8)
建設	▲5.0	▲11.1	▲21.0	▲5.2	±0.0	▲18.7	▲12.5(▲18.7)
製造	▲32.0	▲20.0	▲36.0	▲17.3	▲20.0	▲26.9	▲26.9(▲16.0)
卸・小売	▲21.8	▲15.1	▲17.2	▲17.8	▲27.5	▲34.4	▲34.4(▲27.5)
サービス	△11.1	△5.5	△15.7	△11.1	±0.0	▲11.7	±0.0(▲6.6)





【令和3年8月の調査結果のポイント】

〈全産業DIは4か月連続で悪化。先行き改善を見込むが、緊急事態宣言の期間が長引く中、危機感強まる〉

8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.6(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.5(同▲12.0)である。変わらない業種は、建設業▲31.2(同▲31.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲23.5(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲51.7(同▲44.8)である。

新型コロナウイルスの感染急拡大により緊急事態宣言が発出される中、外出自粛傾向の高まりや営業制限により小売業や飲食店では売上減少、建設業からは従業員のPCR検査負担について声が寄せられた。製造業からは、原材料の価格高騰や納入の遅れ、不足による生産調整についてコメントがあった。またテレワークが進む中、コミュニケーション不足や従来の営業ができない厳しさについて声が寄せられた。先行きDIは▲19.3(今月比+11.3)と改善を見込んでいるが、緊急事態宣言が長引く中、危機感が強まっている。

【建設業】からは、「職人のワクチン接種が始まり、お盆休み含め休日が増加(置)」、「現場の職人の感染者が増加。弊社負担で職人全員にPCR検査を受けさせたこともあり、保険適応で受けられるよう、行政に体制を整えてほしい」(塗装工事)、「ウッドショックにより木材の高騰が続いている。建築資材が一般的に高騰しており、建設の先送りや利益率の低下がみられる」(一般土木建築工事)、「オリンピック・パラリンピック終了後の先行きが不安」(土木工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「半導体不足で客先が生産停止、弊社への発注も止まっている。再開が未定で材料を確保すべきか難問」(金属製品)、「全体的に下げ止まり。基礎化粧品容器が踏ん張っている。医療品容器はロックダウンの影響で海外工場の人が集まらず、生産ができないため発注がかからない」(プラスチック加工)、「業務用製品の製造ラインは1ヶ月以上動きがない。今後も不透明で、固定費の削減などで業績悪化を抑える」(酒類)、「受注は前年度並みに回復。ただ、コロナ、半導体不足、アメリカ寒波の影響により、電子部品の価格上昇と原材料の値上げが発生。特に電子部品は納入が遅れ、装置の製造が出来ない状態。電子部品は超大手企業が押さえてしまい、中小にまわらない」(機械・同部品)、「前々年同月比42%減だった前年とほぼ同じか少し悪い。9、10月に行われるイベントのプログラム、チラシ等の印刷物が全て中止になった」(印刷)、「前年同月比では良いが、コロナ以前と比べるとまだまだ。テレワーク等でコミュニケーション不足は否めない」(鉄鋼)、「営業活動が制限され続けており、とてもテレワークで賄えない。若い世代に対するワクチン接種の進捗が遅い。学校での集団接種を進めてほしい」(化学工業)、「半導体・自動車関連は順調だが、世界的なロックダウンや半導体不足によりブレーキがかかり、トヨタでも9月は大幅減産。また、鋼材・樹脂が高騰しており利益を圧迫。人材も不足していて、技術伝承といった意味でも課題である。その他、デジタル化の取り組みが今後の持続的成長に影響する」(金属素形材製品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「市内感染者3桁が続く、一層外出を控えている様子で昨年より悪化」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「緊急事態宣言の影響で買い物頻度が減少。人の集まる大型店より小型スーパーに足を運んでいる様子で厳しい」(大型小売店)、「大型案件受注があり、売上好調」(建築材料卸売)、「主原料の卵・乳製品・小麦粉・油脂関係が全て値上げ。価格転嫁が悩み」(洋菓子店)、「猛暑と大雨で人の流れは少ないが、夜間の駅前路上飲みが多い」(各種商品小売)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「営業時間短縮、酒類提供禁止により客数大幅減」(日本料理)、「テレワークを導入した業務に対する助成がほしい。緊急事態宣言の期間がわからない中、新規顧客獲得は難しい。業績向上には多角化経営が必要」(広告代理)、「夏期講習中のお昼は全員家に帰らせるなど気を遣った。お盆休み以降、生徒の周りで感染者が増え、オンライン授業に切り替えた。学校再開に不安な保護者は多く、ワクチン接種が進むまでオンラインにするなどして対応すべき」(学習塾)、「売り物件が極端に減少し社有物件が少なく、売上大幅減」(不動産管理)、「大学の対面授業や留学生受け入れの見通しがつかないため、学生向け賃貸需要の戻りが鈍い。住居系賃貸は堅調」(不動産賃貸・管理)、「ワクチン接種が進むと思われた時期は景気好転の兆しがあったが、接種の遅れ、問題への政府対応の鈍さから、動向が悪くなりつつある。ウッドショックによる仕入単価の上昇、最低賃金引上げなど、先の見通しは悪い」(税理士)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
6月	▲19.3	▲26.3	▲8.6	▲32.1	▲5.5
7月	▲23.5	▲31.2	▲12.0	▲44.8	△6.6
8月	▲30.6	▲31.2	▲11.5	▲51.7	▲23.5
見通し	▲19.3	▲25.0	▲3.8	▲48.2	△11.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.5	▲ 15.9	▲ 29.5	▲ 21.5	▲ 40.9	▲ 39.7	△ 6.8	△ 12.5
建設	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 31.2	△ 25.0	△ 12.5
製造	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 15.3	▲ 15.3	▲ 65.3	▲ 65.3	▲ 3.8	±0.0
卸・小売	▲ 62.0	▲ 34.4	▲ 58.6	▲ 41.3	▲ 41.3	▲ 41.3	±0.0	△ 13.7
サービス	▲ 5.8	±0.0	▲ 5.8	±0.0	▲ 5.8	▲ 5.8	△ 17.6	△ 29.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.6	▲ 19.3	▲ 25.0	▲ 21.5
建設	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 12.5
製造	▲ 11.5	▲ 3.8	▲ 26.9	▲ 26.9
卸・小売	▲ 51.7	▲ 48.2	▲ 34.4	▲ 34.4
サービス	▲ 23.5	△ 11.7	▲ 11.7	±0.0

## 令和3年8月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.6に対し、「CCI-LOBO」が▲29.4で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲22.5で柏の方がマイナス幅が7.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.9で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.9に対し、「CCI-LOBO」が▲40.0で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△6.8に対し、「CCI-LOBO」が△11.4で柏の方がプラス幅が4.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で柏の方がマイナス幅が5.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。

【令和3年8月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	<p>置職人さんのコロナワクチン接種が始まり、お盆休みほか休日がとても増えた月だっ 建設現場で働く職人の感染者が徐々に増えている。職人は、日勤月給がほとんど で、感染すると10日は現場に行けなくなる。収入減を恐れ、発熱していても現場に來 てしまうことが感染拡大を引き起こしている要因だと感じている。弊社の現場では、朝 の検温で37.0度を超えた職人は作業せずに帰宅してもらう措置をとっているが、現 場に来ること自体が感染拡大になる。実際に現場から帰宅した職人が発熱外来でP CR検査を受けた結果陽性となった。そのことが判明してすぐに弊社負担で現場にい る職人にPCR検査を受けさせた。高額なため、会社で費用を負担しなければ検査を 受けることを拒否されることだった。濃厚接触者でない限り検査は自費になるので、 行政には状況によって保険適応でPCR検査を受けられるように体制を整えてほし い。感染することは悪ではなく仕方がないことであるが、個人の事情で感染拡大を引 き起こす行動を問題にするべきだと感じている。</p>	<p>コロナワクチン接種</p>	<p>重工事請負・量製造販売業</p>
	<p>ウッドショックにより木材の高騰が続いている。建築資材が全般的に高騰しており、建 設の先送りや利益率の低下がみられる。</p>	<p>ウッドショック 建設の先送り 利益率低下</p>	<p>一般土木建築工事業</p>
	<p>オリンピック・パラリンピック終了後の先行きが不安。</p>	<p>先行き不安</p>	<p>土工事業</p>
	<p>感染拡大につけ、先が見えないのが問題。</p>	<p>先行き不透明</p>	<p>一般土木建築工事業</p>
製造業	<p>半導体不足の影響で客先の生産が止まり、そのため弊社への発注が止まっている。 いつ再開になるか未定で材料の確保をするべきかどうかとも難問である。</p>	<p>半導体不足による発注数減少</p>	<p>金属製品</p>
	<p>全体的に下げ止まったまま、推移している。化粧品容器はメイクアップ関連はほぼ壊 滅状態で基礎化粧品は何とか踏ん張っている。医療品容器はロックダウンの影響で 海外工場の人材が集まらず、生産ができないため発注がかからない。</p>	<p>化粧品容器ほぼ壊滅状態 海外工場の人材不足</p>	<p>プラスチック加工</p>
	<p>緊急事態宣言やまん延防止特別措置の対象地域拡大と期間延長により、飲食店の 休業要請や時短要請及び酒類の提供禁止による影響が非常に大きく、業務用製品 を製造している製造ライン等は、1ヶ月以上製造の無い状況である。今後も感染拡大 が収まるとは思えず、どのようになるか不透明な状況である。今後も固定費の削減等 をしていきながら業績の悪化を最小限で押さえていく。</p>	<p>酒類提供禁止の影響 業務用製品ラインの停止</p>	<p>酒類製造業</p>
	<p>世界的にコロナの影響で素材の流通が乱れて、価格の値上げに繋がっているように 思える。</p>	<p>素材価格値上げ</p>	<p>プラスチック成型</p>
	<p>4月頃と比べると受注が前年度並みに戻ってきてはいる。但し、コロナ、半導体不足、 アメリカ寒波の影響により電子部品の価格アップ、鋼材等原材料の値上げ、電子部 品の納入遅れが発生し、特に電子部品の納入遅れの影響が大きく装置の製造が出 来ない状態になっている。電子部品は超大手企業が力で押えてしまい、中小にはま わって来ない状況。年度後半に向けて先行きが読めない状況となっている。</p>	<p>受注は前年度並みに回復 電子部品の価格上昇、納入遅れ 先行き不透明</p>	<p>機械・同部品製造業</p>
	<p>新型コロナウイルスの影響を受けて、前年8月の売上は前々年同月比42%減少。当 年8月の売上はすでに影響を受けている前年8月とほぼ同額、もしくは減少を見込ん でいる。新型コロナウイルスの影響が常態化しているため、今後の売上の増加は望 めない。とくに8月、9、10月に行われるイベントのプログラム、チラシ等の印刷物 が全て中止になり、厳しい月となった。</p>	<p>売上前々年比42%減少 イベント印刷物の中止</p>	<p>印刷業</p>
	<p>歴史的に見ても感染症のサイクルは人為的ばかりの出来事と思込めない点を感じ る。その時期に遭遇した自分たちがどう切り抜けるのか、個々の気づきにヒントがあ ると思う。</p>	<p>コロナの切り抜け方</p>	<p>印刷業</p>
	<p>コロナの影響で来店が減っているので厳しい状況。</p>	<p>コロナによる来店減少</p>	<p>かばん</p>
	<p>前年同月比では、良くなっているが、コロナ禍以前に比べてまだまだである。テレ ワーク等でコミュニケーション不足は否めない。</p>	<p>テレワークによるコミュニケーション減少</p>	<p>鉄鋼業</p>
	<p>コロナの影響で営業活動が制限され続けている。とてもテレワークで賄えない。若い 世代に対するワクチン接種の進捗が遅い。学校での集団接種を進めてほしい。</p>	<p>営業活動の制限 若年層のコロナワクチン接種強化</p>	<p>化学工業</p>
<p>売上高は前年度よりも上がり、コロナ前の水準近くまで戻ったが、コロナ禍が長引き 深刻な状況が続く中で、オリンピック・パラリンピック終了後、大きな影響が出る可 能性が増した気がする。政治に対する不自信や不満、コロナや気候変動、地球温暖化 問題等、様々な問題が、今後われわれ中小企業にとっても大きな変革の必要性を高 めているようだ。</p>	<p>コロナ前水準まで売上回復 先行き不透明</p>	<p>自動車付属品製造業</p>	
<p>半導体・自動車関連は順調に推移しているがグローバルなロックダウンや半導体 不足によりブレーキがかかりトヨタは9月世界生産の4割にあたる36万台の減産。ま た、人材が不足しており、採用活動は継続しているが厳しい。材料は鋼材・樹脂とも に高騰しており利益を圧迫。この2点は優先的な課題であり、特に人材は技術の伝 承といった意味でも継続的な課題である。その他、デジタル化の取り組み結果が今後 の持続的成長に大きく影響する。</p>	<p>半導体不足による生産減 人材不足 材料高騰により利益圧迫</p>	<p>金属素形材製品製造業</p>	
卸・小売業	<p>協同組合のため店舗により状況は異なる。猛暑と大雨により人の流れは少ないよう だが、夜間の駅前には路上飲みが多い。</p>	<p>猛暑と雨により人の往来減少</p>	<p>各種商品小売業</p>
	<p>市内での感染者3桁が続き、より一層外出を控えている様子で昨年より一層悪化。 緊急事態宣言の影響が客数に表れている。買い物頻度も減っている。人の集まりや すい店より小型の食品スーパーに足を運んでいると思われる。スーパーが危険との イメージが付いてしまい厳しい状況。</p>	<p>感染者増加に伴う外出減による景況悪化</p>	<p>時計・眼鏡・光学機械小売業</p>
	<p>大型案件受注があり、売上好調となった。</p>	<p>買い物頻度の減少 大型スーパーの客離れ</p>	<p>大型小売店</p>
	<p>主原料である、卵・乳製品・小麦粉・油脂関係が皆値上げ、商品に転嫁しづらく悩 み</p>	<p>大型案件受注による売上好調</p>	<p>建築材料卸売業</p>
	<p>とにかくワクチンの予約が柏市は取れない。商工会議所が音頭を取り職域で会員企 業を助けるべきだったと思う。</p>	<p>卵、乳製品等原料値上げ</p>	<p>洋菓子店</p>
<p>コロナに影響する売上増減は、現在不透明。</p>	<p>ワクチンの職域接種要望</p>	<p>不動産賃貸業</p>	
		<p>売上に対するコロナの影響不透明</p>	<p>ソフトウェア業</p>











【令和3年8月業種別業界内トピックス】











	<p>コロナ対策として、夏期講習中は全員お昼は一旦家に帰って食べるようにするなど大変気を使った。ただ、お盆休み以降は、学校の部活動や生徒の家族に感染者が出るなどして、塾に来られない生徒が出てきたため、急遽オンライン授業に切り替えた。デルタ株は子どもたちでも感染する可能性が高いと言われていたが、この状況で学校を再開することに不安を抱いている保護者が非常に多い。40代、50代の親たちが十分にワクチンを打ち終わるまであと2か月ほどと言われていたため、それまでは学校をオンラインに切り替えるなどして対応すべきだと思う。生徒たちの学習の機会を奪うなどという人もいたようだが、生徒たちやその家族の命を危険にさらすことの方がよほど罪は深いだろう。日々生徒たちに指導をしている立場から言わせてもらえば、学校での2か月の学習の遅れなど、その気になれば容易に取り戻せるほどのものではない。今、学校の現場は本当に混乱しているようだ。行政の上立つ人々には、判断を現場に丸投げするのではなく、しっかりとした覚悟と責任感を持って具体的に指示を出すことを強く求めたい。</p>	<p>オンライン授業の切り替え 学校授業のオンライン化</p>	<p>学習塾</p>
サービス業	<p>感染症対策として営業時間短縮及び酒類の提供禁止により、客数大幅減少。</p>	<p>客数大幅減少</p>	<p>日本料理</p>
	<p>売り物件が極端に減少していることにより、社有物件が少なく大幅な売上低下になっている。コロナの影響が不動産売りに悪影響になっている。早く終息することを願っている。</p>	<p>売り物件減少により売上低下</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>ワクチン接種が進むと思われた時期から、少し景気が好転する兆しがあった。しかしワクチンの遅れや、問題が出てから動く政府の動きの鈍さから、段々と気持ちが落ちて景気の動向も悪くなりつつある。また、ウッドショックによる仕入単価の上昇、最低賃金を上げる話など、コスト増加によって先の見通しは悪い。</p>	<p>景気悪化傾向 コスト増により先行き悪化の見通し</p>	<p>税理士</p>
	<p>大学の本格対面授業の目処が立たない影響と留学生の受け入れの見通しがつかない為、学生向け賃貸需要の戻りが鈍い。その他、住居系賃貸は堅調。</p>	<p>学生向け賃貸需要鈍化 住居系賃貸堅調</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>テレワークを極力導入した業務を行っているものの、そこに対する補助や助成が欲しい。営業などができない部分もある。緊急事態宣言が発出され、また、延長もいつまでになるかわからない中で新規の顧客獲得は難しい。既存客も極力経費削減の流れで変わらないので、多角化経営を行わなければ業績上昇は見込めないと考える。</p>	<p>テレワーク補助、助成要望 多角化経営</p>	<p>広告代理業</p>
	<p>去年との比較でなく一昨年なら比較できるが、去年も今年も売上、収益とも最悪の状態が続いている。</p>	<p>売上収益とも最悪</p>	<p>不動産代理業・仲介業</p>











# 令和3年8月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	--	--











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 30.6	 ▲ 31.2	 ▲ 11.5	 ▲ 51.7	 ▲ 23.5
CCI-LOBO	 ▲ 29.4	 ▲ 20.9	 ▲ 12.5	 ▲ 44.4	 ▲ 37.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.5	 ▲ 31.2	 ▲ 7.6	 ▲ 62.0	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 22.5	 ▲ 19.4	 ▲ 5.9	 ▲ 42.8	 ▲ 25.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.5	 ▲ 25.0	 ▲ 15.3	 ▲ 58.6	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 28.9	 ▲ 24.2	 ▲ 15.0	 ▲ 43.3	 ▲ 33.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 40.9	 ▲ 37.5	 ▲ 65.3	 ▲ 41.3	 ▲ 5.8
店のほとんど	 ▲ 40.0	 ▲ 59.7	 ▲ 50.3	 ▲ 28.9	 ▲ 28.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 6.8	 25.0	 ▲ 3.8	 ±0.0	 17.6
CCI-LOBO	 11.4	 30.6	 6.8	 9.2	 8.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 25.0	 ▲ 18.7	 ▲ 26.9	 ▲ 34.4	 ▲ 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 19.4	 ▲ 6.4	 ▲ 11.2	 ▲ 27.4	 ▲ 30.2

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：2021年8月16日～20日

調査対象：全国の337商工会議所が2,651企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、感染急拡大により悪化。先行きは、感染収束が見通せず、厳しい見方続く**

8月の全産業合計の業況DIは、▲29.4と、前月から▲5.3ポイントの悪化。新型コロナウイルス変異株の感染急拡大により、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の期間延長・対象地域の拡大が実施された。これに伴う帰省を含む外出自粛やイベントの中止、営業制限等の影響により、客足が減少した百貨店などの小売業や、観光関連を中心としたサービス業の業況感が悪化した。また、鉄鋼や木材などの原材料価格の上昇、東南アジアの感染拡大による部品調達難が製造業、建設業など幅広い業種における業況の押し下げ要因となっている。業況回復に向けた動きが見られていた中小企業の景況感は、厳しい状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲32.3（今月比▲2.9ポイント）と悪化を見込む。ワクチン接種の進展による経済活動正常化

に期待する声が聞かれる一方で、新型コロナウイルスの感染収束が見通せず、長引く受注・売上減少や客足回復の遅れから、業績悪化の継続を懸念する企業は多い。また、世界的な半導体不足による生産調整や、鉄鋼などの原材料価格上昇分の価格転嫁の遅れなどもあり、先行き不透明感は強まっており、厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**【建設業】**「ウッドショックによる材料価格の高騰が続いており、採算は悪化。また、地域における公共事業の受注機会が減少しており、今後の業績悪化を懸念している」（一般工事業、「受注競争が厳しく、本来は受注しない収益確保の難しい案件でも受けざるを得ない。また、先

の見通しが立たない中、コスト削減のため、人材育成に取り組めずにいる」（内装仕上工事業）

**【製造業】**「東南アジアの新型コロナウイルス感染拡大の影響による取引先の自動車メーカーの生産調整の影響により、受注量に影響が出ている」（自動車・付属品製造業、「砂糖や小麦粉などの原材料価格の上昇が続く中、販売価格への価格転嫁を検討している。ただし、コロナ禍で苦戦しているサービス業の取引先がどの程度許容してくれるか判断が難しい」（調味料製造業）

**【卸売業】**「喫茶店やホテル向けの業務用コーヒーメーカーへの売上は減少したものの、家庭用コーヒーメーカーへの売上は増加。ただし、コーヒー生豆の相場上昇に伴い、家庭用コーヒーの値上げが相次いでおり、今後の消費者の買い控えを懸念している」（農産物卸売業、「建築資材の価格上昇により採算は悪化。また、ウッドショックによる木材不足で、取引先の着工に影響が出ている」（建築材料卸売業）

**【小売業】**「新型コロナウイルス感染拡大に伴う入場規制を実施することを公表して以降、客数・売上ともに大きく落ち込んだ」（百貨店）、「例年大きな売上が見込めるお盆期間において、緊急事態宣言と天候不順が重なったため、客足が伸び悩み、売上は悪化した」（菓子小売業）

**【サービス業】**「時短営業に加え、酒類提供の停止も行ってはいるが、客単価が低下しており、採算は悪化している。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴う営業制限が長引き、経営は厳しい状況」（飲食業）、「新型コロナウイルス感染急拡大の影響を受け、宿泊予約のキャンセルが相次ぎ、業況は悪化」（宿泊業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
6月	▲26.7	▲19.8	▲14.6	▲25.8	▲41.8	▲30.6
7月	▲24.1	▲18.2	▲9.7	▲28.3	▲37.6	▲28.9
8月	▲29.4	▲20.9	▲12.5	▲30.7	▲44.4	▲37.9
見通し	▲32.3	▲26.1	▲17.6	▲31.1	▲43.0	▲42.1

# 柏の景気情報 (令和3年8月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

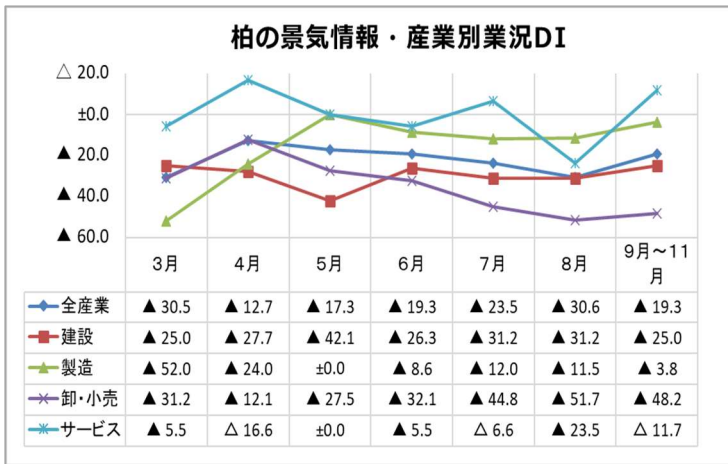
調査期間：令和3年8月25日～9月6日 調査対象：柏市内129事業所及び組合にヒアリング、回答数88件

### 全産業DIは4か月連続で悪化。先行き改善を見込むが、緊急事態宣言の期間が長引く中、危機感強まる

8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.6(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

新型コロナウイルスの感染急拡大により緊急事態宣言が発出される中、外出自粛傾向の高まりや営業制限により小売業や飲食店では売上減少、建設業からは従業員のPCR検査負担について声が寄せられた。製造業からは、原材料の価格高騰や納入の遅れ、不足による生産調整についてコメントがあった。またテレワークが進む中、コミュニケーション不足や従来の営業ができない厳しさについて声が寄せられた。

先行きDIは▲19.3(今月比+11.3)と改善を見込んでいるが、緊急事態宣言が長引く中、危機感が強まっている。



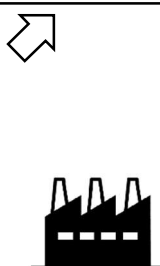
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「職人のワクチン接種が始まり、お盆休み含め休日が増加(昼)、「現場の職人の感染者が増加。弊社負担で職人全員にPCR検査を受けさせたこともあり、保険適応で受けられるよう、行政に体制を整えてほしい」(塗装工事)、「ウッドショックにより木材の高騰が続いている。建築資材が全般的に高騰しており、建設の先送りや利益率の低下がみられる」(一般土木建築工事)、「オリンピック・パラリンピック終了後の先行きが不安」(土木工事)



製造業

「半導体不足で客先が生産停止、弊社への発注も止まっている。再開が未定で材料を確保すべきか難問」(金属製品)、「全体的に下げ止まり。基礎化粧品容器が踏ん張っている。医療品容器はロックダウンの影響で海外工場の人が集まらず、生産ができないため発注がかからない」(プラスチック加工)、「業務用製品の製造ラインは1ヶ月以上動きがない。今後も不透明で、固定費の削減などで業績悪化を抑える」(酒類)、「受注は前年度並みに回復。ただ、コロナ、半導体不足、アメリカ寒波の影響により、電子部品の価格上昇と原材料の値上げが発生。特に電子部品は納入が遅れ、装置の製造が出来ない状態。電子部品は超大手企業が押さえてしまい、中小にまわらない」(機械・同部品)、「前々年同月比4.2%減だった前年とほぼ同じか少し悪い。9、10月に行われるイベントのプログラム、チラシ等の印刷物が全て中止になった」(印刷)、「前年同月比では良いが、コロナ以前と比べるとまだまだ。テレワーク等でコミュニケーション不足は否めない」(鉄鋼)、「営業活動が制限され続けており、とてもテレワークで賄えない。若い世代に対するワクチン接種の進捗が遅い。学校での集団接種を進めてほしい」(化学工業)、「半導体・自動車関連は順調だが、世界的なロックダウンや半導体不足によりブレーキがかかり、トヨタでも9月は大幅減産。また、鋼材・樹脂が高騰しており利益を圧迫。人材も不足していて、技術伝承といった意味でも課題である。その他、デジタル化の取り組みが今後の持続的成長に影響する」(金属素形材製品)



卸・小売業

「市内感染者3桁が続き、一層外出を控えている様子で昨年より悪化」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「緊急事態宣言の影響で買い物頻度が減少。人の集まる大型店より小型スーパーに足を運んでいる様子で厳しい」(大型小売店)、「大型案件受注があり、売上好調」(建築材料卸売)、「主原料の卵・乳製品・小麦粉・油脂関係が全て値上げ。価格転嫁が悩み」(洋菓子店)、「猛暑と大雨で人の流れは少ないが、夜間の駅前には路上飲みが多い」(各種商品小売)



サービス業

「営業時間短縮、酒類提供禁止により客数大幅減」(日本料理)、「テレワークを導入した業務に対する助成がほしい。緊急事態宣言の期間がわからない中、新規顧客獲得は難しい。業績向上には多角化経営が必要」(広告代理)、「夏期講習中のお昼は全員家に帰らせるなど気を遣った。お盆休み以降、生徒の周りで感染者が増え、オンライン授業に切り替えた。学校再開に不安な保護者は多く、ワクチン接種が進むまでオンラインにするなどして対応すべき」(学習塾)、「売り物件が極端に減少し社有物件が少なく、売上大幅減」(不動産管理)、「大学の対面授業や留学生受け入れの見通しが見えないため、学生向け賃貸需要の戻りが鈍い。住居系賃貸は堅調」(不動産賃貸・管理)、「ワクチン接種が進むと思われた時期は景気好転の兆しがあったが、接種の遅れ、問題への政府対応の鈍さから、動向が悪くなりつつある。ウッドショックによる仕入単価の上昇、最低賃金引上げなど、先の見通しは悪い」(税理士)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲30.6に対し、「CCI-LOBO」が▲29.4で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。